

2 生 活

○内容の構造

- ・内容は、自ら考えて、判断し、表現等をしていく中で、知識や技能を身に付けていくことを重視し、(ア)思考力・判断力・表現力等 (イ)知識及び技能 の柱で示されています。

○概要

- ・内容は12の項目（内容項目という）で示されています。

○表の見方

- ・表には具体的な配慮や支援の仕方を示していませんが、以下の視点で指導内容を示しています。

1段階 「様々な学習活動を教師と一緒にを行うことを基本」

2段階 「主に教師の援助を求めながらもできる限り自分の力で生活に生かしていくことを目指す」

3段階 「主にできる限り自分の力で生活に生かしていくことを目指す」

○教科の特質等

- ・生活科は各教科等を合わせた指導の中で、基本的には取り上げられると思います。その際、生活科のどの指導内容を指導するのかを明確にしながら指導し、3つの資質・能力を育む必要があります。
- ・他教科とのつながりが多いため、どの教科とどのように関連するのか、中学部、高等部の内容にどうつながるのかを念頭におきながら、指導に当たる必要があります。
- ・解説に「～が大切である」という表記があり、そこに示されているものが「指導内容」とも「配慮事項」とも受け止めることができる記述がありました。この表では指導内容として示していませんが、そういった表記に注意し、児童の実態に合わせて指導内容を設定してください。
- ・今回の改訂で「ものの仕組みと働き」という内容が新たに設定されました。どのような実践ができるのか今後の検討課題です。

生活

生 活				
目標	具体的な活動や体験を通して、生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
知識及び技能	(1)活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。			
思考力、判断力、表現力等	(2)自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。			
学びに向かう力、人間性等	(3)自分のことに取り組んだり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしようとしたりする態度を養う。			
段階の目標	小1段階	小2段階	小3段階	
知識及び技能	ア 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴に関心をもつとともに、身の回りの生活において必要な基本的な習慣や技能を身に付けるようにする。	ア 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴や変化に気付くとともに、身近な生活において必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	ア 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	
思考力、判断力、表現力等	イ 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて関心を持ち、感じたことを伝えようとする。	イ 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて気付き、感じたことを表現しようとする。	イ 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。	
学びに向かう力、人間性等	ウ 自分のことに取り組もうとしたり、身近な人々、社会及び自然に関心を持ち、意欲をもって学んだり、生活に生かそうとしたりする態度を養う。	ウ 自分のことに取り組もうとしたり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけようとしたり、意欲や自信をもって学んだり、生活に生かそうとしたりする態度を養う。	ウ 自分のことに取り組んだり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしようとしたりする態度を養う。	
ア 基本的生活習慣	内容	食事や用便等の生活習慣に関わる初歩的な学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	食事、用便、清潔等の基本的生活習慣に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	身の回りの整理や身なりなどの基本的生活習慣や日常生活に役立つことに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		(7)簡単な身辺処理に気付き、教師と一緒に行動すること。	(7)必要な身辺処理が分かり、身近な生活に役立てようとする。	(7)必要な身辺処理や集団での基本的生活習慣が分かり、日常生活に役立てようとする。
		(1)簡単な身辺処理に関する初歩的な知識や技能を身に付けること。	(1)身近な生活に必要な身辺処理に関する基礎的な知識や技能を身に付けること。	(1)日常生活に必要な身辺処理等に関する知識や技能を身に付けること。
	食事	・食事前の手洗いや配膳、食後の片付けをする。	・食事中は立ち歩かない、こぼさず食べるなど、食事のマナーや態度について分かる。	・一人で食事する。 ・準備や片付けなど、一連の活動を友達と協力して行う。
		・尿意や便意を伝えようとする。	・用便の手順に沿って用を足す。	・用便後は手を洗う。
	用便	・用便の手順に気付き、教師と一緒に行動したり、伝えようとする。	・男女の便所を区別する、鍵をかけることなど、一連の流れと共に基本的方法や態度を身に付ける。	・トイレにおけるいろいろな種類の鍵の使用法を知る。 ・援助がなくても自分で用を足す。
	寝起き	・一人で就寝することに不安をもたないよう、援助してもらって着替えを行う。	・定時に寝起きする、寝床の準備や片付けをすることなどの規則正しい生活を意識する。	・自分で寝床を準備したり片付けたりするなど、一人でできることを増やす。
	清潔	・洗面や歯磨きをする。 ・タオルで拭こうとする。	・汚れた衣服を着替えるなどの身体各部や衣服の汚れが理解できる。	・簡単な洗濯をする、入浴時に身体各部の洗い方やふき方が分かるなど、自分から清潔を意識して活動に取り組む。
	身の回りの整理	・持ち物の整理、自分の衣服や靴など自分の使った物の整理や、決められた場所に置くことに気付く。	・ハンガーに掛けるなどの整理の仕方や収納場所や収納の方法などが分かる。	・靴や衣服などの整理をすることや、かばんや文具などの収納場所や収納方法が分かり整理整頓を行おうとする。
	身なり	・簡単な衣服の着脱や、長靴等の身に付け方に気付く。	・衣服の前後や裏表が分かる、着脱後の簡単な確認をするなど、身なりについて自分で気付く。	・そで口や襟もと、すそを整えるなどの身だしなみを整えようとする。

生活

		小1段階	小2段階	小3段階
イ安全	内容	危ないことや危険な場所等における安全に関わる初歩的な学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身の回りの安全に気付き、教師と一緒に安全な生活に取り組もうとすること。 (イ) 安全に関わる初歩的な知識や技能を身に付けること。	遊具や器具の使い方、避難訓練等の基本的な安全や防災に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身近な生活の安全に関心を持ち、教師の援助を求めながら、安全な生活に取り組もうとすること。 (イ) 安全や防災に関わる基礎的な知識や技能を身に付けること。	交通安全や避難訓練等の安全や防災に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 日常生活の安全や防災に関心を持ち、安全な生活をするよう心がけること。 (イ) 安全や防災に関わる知識や技能を身に付けること。
	危険防止	・危険な場所について知るとともに、身の回りにある小さな玩具や硬貨などを決して口に入れない。 ・階段や段差などに注意して歩く。 ・自分の身を守る適切な行動に気付く。	・安全な遊び方や遊具・器具の使い方を学ぶ。 ・身近な生活の安全に関心をもつ。	・自分で気を付けながら、安全に器具等を扱う。 ・危険な場所や状況を知らせ自分から回避する。
	交通安全	・信号や標識に従ったり道路を横断したりする。 ・教師と一緒に体験し、安全に通行しようとする。	・自動車や自転車などに気を付ける。 ・歩行者用の信号や踏切の警報器の意味を知る。 ・安全な歩行の仕方が分かり、安全への習慣を身に付ける。	・左右を確認して渡ったり、標識を理解したりする。 ・自分で気を付けながら安全に過ごせる。
	避難訓練	・教師と一緒に避難する。 ・指示に従って避難する。 ・教師と手を繋いだりして、適切な行動ができる。	・「火事」、「地震」、「避難」などの言葉の意味を理解する。 ・避難時に友達と一緒に適切に行動しようとする。	・教師の指示を適切に理解し、適切な行動の必要性が分かる。
	防災	・災害や事故について知る。 ・地域の施設設備について知る。 ・教師と一緒に活動することで、危険な場所などがあることに気付く。	・危険な場所に気付くとともに、身近にある安全な場所を知る。 ・教師や友達と一緒に行動し、安全に生活する意識を高める。	・土砂崩れや河川の増水、地震や火事などの災害に気付き、その場の状況をとらえて行動できる。 ・地域の避難場所が分かり移動する。 ・安全な場所や人々との接し方を身に付ける。 ・緊急時に適切な行動がとれるように、日頃から安全や防災についての意識を高める。
	ウ日課・予定			
ウ日課・予定	内容	日課に沿って教師と共にする学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身の回りの簡単な日課に気付き、教師と一緒に日課に沿って行動しようとする。 (イ) 簡単な日課について、関心をもつこと。	絵や写真カードなどを手掛かりにして、見通しをもち主体的に取り組むことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身近な日課・予定が分かり、教師の援助を求めながら、日課に沿って行動しようとする。 (イ) 身近な日課・予定について知ること。	一週間程度の予定、学校行事や家庭の予定などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 日常生活の日課・予定が分かり、およその予定を考えながら、見通しをもって行動しようとする。 (イ) 日課や身近な予定を立てるために必要な知識や技能を身に付けること。
	日課	・教師と同じような行動を教師からの言葉掛けを聞いたり、手をとってもらったりしながら、それらに従って一緒に行動することにより、簡単な日課に気付き、行動しようとする。	—	—
	日課・予定	—	・教師の言葉掛けを聞いたり、次の行動を絵や写真で示したカード等を見たりして、次に何をするのが分かり、できるだけ一人で日課に沿って行動できる。 ・予定については、下校後は何をするのか、また、明日の予定などを取り扱うことで、児童が身近な予定が分かり、見通しをもって過ごすことができるようになる。	・一週間程度の予定が分かり、カレンダーや予定表を見て学校行事や家庭の予定などに従って行動する。 ・都合により予定が変更する場合に対応できる。

生活

		小1段階	小2段階	小3段階
工 遊 び	内容	自分で好きな遊びをすることなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身の回りの遊びに気づき、教師や友達と同じ場所で遊ぼうとすること。 (イ) 身の回りの遊びや遊び方について関心をもつこと。	教師や友達と簡単な遊びをすることなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身近な遊びの中で、教師や友達と簡単なきまりのある遊びをしたり、遊びを工夫しようとしたりすること。 (イ) 簡単なきまりのある遊びについて知ること。	日常生活の中での遊びに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 日常生活の遊びで、友達と関わりをもち、きまりを守ったり、遊びを工夫し発展させたりして、仲良く遊ぼうとすること。 (イ) きまりのある遊びや友達と仲良く遊ぶことなどの知識や技能を身に付けること。
	いろいろな遊び	- 自分の好きな遊びをする。 - 教師とごっこ遊びをする。 - 遊具を使って遊ぶ。 - 教師の働き掛けを受け入れ、まねをするなどして遊んだり、安定した気持ちで十分に身体を動かして遊んだりする。	- 教師や友達と、鬼ごっこなどの簡単なルールのある遊びや大きく身体活動ができる遊具を活用した遊びをしたりする。 - 遊びの場や遊具を友達と共有したり、簡単なルールのある遊びを一緒にしたりすることにより、関わりを広げていく。	- 順番を守ったり交代をしたりするなどの約束や、勝ち負け、役割などが分かる。 - 友達と一緒にルールのある遊びを楽しむ。 - 自分から準備や後片付けをしたりすることや、共通の関心をもつ友達と一緒に楽しんだりする。
	遊具の後片付け	- 自分から片付ける。 - 教師と一緒に遊具を片付ける。	- 自分で使った遊具を片付ける。 - 友達と一緒に大きな物を協力しながら運び収納できる。	収納方法や収集場所が分かり、自分から進んで遊具を片付ける。
オ 人 と の 関 わ り	内容	小さな集団での学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 教師や身の回りの人に気づき、教師と一緒に簡単な挨拶などをしようとする。 (イ) 身の回りの人との関わり方に関心をもつこと。	身近な人と接することなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身近な人を知り、教師の援助を求めながら挨拶や話などをしようとする。 (イ) 身近な人との接し方などについて知ること。	身近なことを教師や友達と話すことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身近な人と自分との関わりが分かり、一人で簡単な応対などをしようとする。 (イ) 身近な人との簡単な応対などをするための知識や技能を身に付けること。
	自分自身と家族	- 自分自身や家族のことが分かる。 - 簡単な紹介をする。 - 自分の名前を呼ばれたときに身振り、表情、挙手や発声などにより返答する。	家族の名前が分かり紹介したり、家族の名前を尋ねられたときに応じたりする。	自分自身や家族について、仕事や兄弟姉妹関係などにも触れて簡単に話したり、紹介したりする。
	身近な人との関わり	- 担任教師や友達、親戚、隣人などの名前を覚えたり、挨拶をしたりする。 - 見聞きしたことについて会話を楽しむ。 - 身近な教師の名前を覚えたり、親しい友達と手をつないだり、ごく簡単な要求を表現したりする。 - 表情、身振り、動作、絵カードなどの多様な方法により、活発なコミュニケーションを行おうとする。 - お辞儀をしたり、手を振ったり、握手したりして挨拶する。	- 担任教師や友達の名前を言ったり、自分から「おはようございます」、「さようなら」などの挨拶をしたりする。 - 教師等に見聞きしたことや遊んだことを話す。	- 簡単な日常の挨拶や、見聞きしたことや遊んだことを教師や友達と話し合う。 - 学校の出来事を家庭等で話したり、家庭等での会話を学校で話したりする。
	電話や来客の取次ぎ	- 電話の取次ぎや来客への対応を適切に行う。 - 人の来訪や電話がかかってきたことに気づき、関心をもつ。	- 人の来訪を伝えたり、電話の取次ぎをしたりする。 - 初歩的な伝言の経験を積み重ねる。	- 電話や来客時には「はい、〇〇です」、「今替わります」、「〇〇先生、電話です」、「〇〇先生にお客様です」などと言って、適切に取次ぎをする。 - 校内に設置してある電話を活用し、児童が率先して取り次ぐことができる。
	気持ちを伝える対応	- 気持ちを表す言葉があることが分かり、自分なりに表現することや、それらを含めた挨拶などを習慣にする。 - それぞれの場面に応じて教師に促され「ありがとう」や「ごめんなさい」などの気持ちを表す経験を積み重ねる。	適切な場面で「ありがとう」や「ごめんなさい」などをできるだけ言葉で言う。	多くの人たちと接するようになったときにも、御礼や謝罪などの気持ちを相手に理解してもらえるよう、気持ちをこめて言える。

生活

	小1段階	小2段階	小3段階
力 役 割	内容 学級等の集団における役割などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身の回りの集団に気付き、教師と一緒に参加しようとする。こと。 (イ) 集団の中での役割に関心をもつこと。	学級や学年、異年齢の集団等における役割に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身近な集団活動に参加し、簡単な係活動をしようとする。こと。 (イ) 簡単な係活動などの役割について知ること。	様々な集団や地域での役割に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 様々な集団活動に進んで参加し、簡単な役割を果たそうとする。こと。 (イ) 集団の中での簡単な役割を果たすための知識や技能を身に付けること。
	集団の参加や集団内での役割 ・いろいろな行事に参加する。 ・児童が学級・学年・異年齢集団など、人数や年齢幅が異なる集団に参加し、友達を知り、一緒に活動する経験を通して、集団の中で活動することに慣れる。	・集団の中で自分の役割を果たす。 ・集団活動で簡単な係活動を果たす。	・児童が積極的に様々な集団活動に参加し、活動の準備や活動における役割を主体的に果たしていく。 ・集団活動では、様々な役割があることを知り、他の係を意識しながら活動の見通しをもって、自分の役割を果たす。
	地域の行事への参加 ・地域の行事に参加する。 ・地域の行事で自分の役割を果たす。 ・地域の行事を楽しむ。	・地域の行事に参加し、簡単な買い物をしたり、地域の人たちと一緒に活動したりする。	・友達と一緒に行事に参加し、主体的に地域の行事の催物などを楽しんだり、地域の人たちと協力して、行事の準備や後片付けをしたりする。
	共同での作業と役割分担 ・簡単な作業を共同で行う。 ・作業において分担された個人の役割を果たす。	・友達と一緒に作業に取り組む際には互いに協力して楽しく作業に取り組める。 ・様々な集団の中で簡単な役割を果たしたり、友達と協力して活動や作業に取り組んだりすることにより、周囲から感謝される経験を通して、役割を果たすよこびや意欲等を高めていく。	・作業分担や役割が分かり、自分から取り組んだり、役割を果たしたりする。
キ 手 伝 い ・ 仕 事	内容 教師と一緒に印刷物を配ることや身の回りの簡単な手伝いなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身の回りの簡単な手伝いや仕事を教師と一緒にしようとする。こと。 (イ) 簡単な手伝いや仕事に関心をもつこと。	人の役に立つことのできる手伝いや仕事に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 教師の援助を求めながら身近で簡単な手伝いや仕事をしようとする。こと。 (イ) 簡単な手伝いや仕事について知ること。	自分から調理や製作などの様々な手伝いをする。ことや学級の備品等の整理などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 日常生活の手伝いや仕事を進んでしようとする。こと。 (イ) 手伝いや仕事をするための知識や技能を身に付けること。
	手伝い ・物を配ったり届けたりする。 ・伝言を届ける。 ・作業を手伝う。	・できるだけ自分で、印刷物を配ることや教室へ教材の運搬の手伝いをする。 ・簡単な道具や器具を教師と一緒に使用して、作業の手伝いをする。 ・手伝いすることへの意欲をもつ。	・道具や器具に慣れるとともに、それらを大切に扱いながら安全に仕事の手伝いをする。
	整理整頓 ・自分の所持品の整理をする。 ・友達や学級の物の整理をする。 ・不要物の選別と不要物を捨てる。 ・自他の学習用具等の区別ができるようにし、個々の児童が、自分のロッカーやかばんなどに用具を収納できる。	・できるだけ自分で机やロッカーなどの中を整理することのほか、友達が使った物や学級の備品についても整理する。	・自分の所持品だけでなく、友達の使った物や学級の備品の整理を行う。 ・整理整頓された教室等の気持ちよさが実感できる。
	戸締り ・窓や扉の開閉をしながらその意味を知る。 ・教室等に鍵を掛けたり、開けたりする。 ・扉や窓の開閉を繰り返しながら、扉や窓の開閉に慣れる。	・扉や窓の開閉と同時に施錠方法を知り、どのようなときに開け、どのようなときに閉めるのかを理解する。	・窓の開閉や鍵の開け閉めが、いつ、どのようなときに必要なのかを理解する。 ・窓をどのくらい開けたり、閉めたりするのかなどが分かる。
	・自分で判断して窓の開閉や鍵の開け閉めをしたり、それらを習慣化したりする。		
	掃除 ・自分の出したごみを拾う。 ・掃除道具を使って簡単な掃除をする。 ・大きなごみをごみ箱に入れるような簡単なことを習慣にしていける。	・身の回りにあるごみを拾って捨てる。 ・任された場所の掃除をする。 ・掃除用具の名称や使い方が分かり、できるだけ一人で、簡単な掃除をする。	・教室内の掃除に加え、分担された場所の掃除をする。 ・それぞれの場所に適した掃除の方法や手順、用具の使い方などを身に付ける。

生活

		小1段階	小2段階	小3段階
キ手伝い・仕事	後片付け	・手伝いや仕事が終わったら、道具や材料などの片付けを行う。 ・自分が使用した道具等を運ぶなど、徐々に慣れる。	・使用した道具の片付けをする。 ・友達からの言葉掛けでも片付けることができる。 ・友達と協力しながら片付ける。	・仕事が終わったことを教師に報告する。 ・手伝いや仕事の終了時に報告をしたり、自分から所定の場所に道具等を片付けたりする。 ・片付けをすることは、集団生活における大切なルールであることに気付く。
	内容	簡単な買い物や金銭を大切に扱うことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身の回りの生活の中で、教師と一緒に金銭を扱おうとすること。 (イ) 金銭の扱い方などに関心をもつこと。	金銭の価値に気付くことや金銭を扱うことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身近な生活の中で、教師に援助を求めながら買い物をし、金銭の大切さや必要性について気付くこと。 (イ) 金銭の扱い方などを知ること。	価格に応じて必要な貨幣を組み合わせるなどの金銭に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 日常生活の中で、金銭の価値が分かり扱いに慣れること。 (イ) 金銭の扱い方などの知識や技能を身に付けること。
ク金銭の扱い	金銭の扱い	・金銭を大切に扱う。・代金を支払う。・硬貨や紙幣の種類を知る。・種類ごとに分類したり数えたりする。 ・金銭を無駄遣いしない。・もらった金銭を保管する。・金銭の遣い道を考える。・遣い道に従って遣う。 ・簡単な買い物をするなどして、金銭を取り扱う方法を知る。	・実際に金銭を支払い、金銭の価値を徐々に理解する。 ・お年玉やお小遣いなど、自分の金銭を財布や貯金箱に大切に保管することやその使い方を知る。	・日常生活では、金銭が必要なことが分かり、金銭の種類ごとに分類して数えたり、必要に応じて両替をしたりすることに慣れる。 ・無駄遣いをしないことや遣い道を考えて遣う。 ・必要に応じて銀行などを活用する。
	買い物	・買い物をする。・物の買い方を知る。・決まった額の買い物をする。 ・品物を選んでレジまで持っていき、店の人に金銭を渡す、品物を袋に入れるなどの体験をする。	・できるだけ自分で買い物をし、「これ、ください」など、買い物に必要な言葉を使う。 ・決まった額の買い物をする。 ・商店などで品物を選んで買う。	・目的に合う買い物をする。 ・自分で目的に応じた買い物をする。 ・「幾らですか」「〇個ください」などの買い物に必要なことばを使う。 ・簡単なおつりのある買い物をする。 ・値札を見て買い物をする。 ・商店などでレジの場所が分かり、代金を支払う。
	自動販売機等の利用	・自動販売機を使う。・身近にある自動販売機の種類を知り利用する。 ・自動販売機に金銭を入れ、商品を選んでボタンを押し、品物を取り出すことに慣れる。	・できるだけ一人で自動販売機に金銭を入れ、商品を選んでボタンを押し、品物を取り出すことで、およその使い方を知り、徐々に一人で操作できる。	・簡単な自動販売機などを自分で利用する。
ケきまり	内容	学校生活の簡単なきまりに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身の回りの簡単なきまりに従って教師と一緒に行動しようとする。 (イ) 簡単なきまりについて関心をもつこと。	順番を守ることや信号を守って横断することなど、簡単なきまりやマナーに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身近で簡単なきまりやマナーに気付き、それらを守って行動しようとする。 (イ) 簡単なきまりやマナーについて知ること。	学校のきまりや公共の場でのマナー等に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 日常生活の簡単なきまりやマナーが分かり、それらを守って行動しようとする。 (イ) 簡単なきまりやマナーに関する知識や技能を身に付けること。
	自分の物と他人の物の区別	・自他の物を区別する。	・他人の物や学校の物品を無断で持ち出さない。	・物を適切な方法で貸し借りする。 ・落とし物を拾ったときは、教師に届けたり、持ち主を探して手渡ししたりする。
	学校のきまり	・学校生活におけるきまりを知って守る。 ・教師からの言葉掛けや様々な合図などを聞いて、学校生活の簡単なきまりを行動しながら知る。 ・決まった場所で靴を履き替える。 ・廊下は静かに歩く。	・学校生活では、廊下の右側通行、靴を履き替える場所、登校時刻や下校時刻など様々なきまりがあることに気付くとともに、それを守る。	・必要に応じて簡単なきまりを相談してつくる。

生活

		小1段階	小2段階	小3段階
ケきまり	日常生活のきまり	・日常生活における簡単なきまりを知って守る。	・きまりを守りながら進んで施設等を利用する。	・公園や図書館などの公共施設や、電車やバスなどの公共機関を利用する際のきまりを守る。 ・校内や通学路などに設けられている火災報知機や消火器等の非常用設備について、それぞれの役割を理解することや普段はそれらに触れないこと、非常時における使用法について、およそを理解する。
	マナー	—	・正しい姿勢で食事をし、食事中は席に座っている、口に食物が入っているときは話さないなど、身近な生活におけるマナーを守る。	・バスや電車、病院や図書館などでは静かに行動したり過ごしたりするなど、公共の場でのマナーについて、その理由も分かり実際に守る。
	内容	自分の家族や近隣に関心をもつこと及び公園等の公共施設に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 身の回りにある社会の仕組みや公共施設に気付き、それを教師と一緒にみんなに伝えようとする。こと。 (4) 身の回りの社会の仕組みや公共施設の使い方などについて関心をもつこと。	自分の住む地域のことや図書館や児童館等の公共施設に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 教師の援助を求めながら身近な社会の仕組みや公共施設に気付き、それらを表現しようとする。こと。 (4) 身近な社会の仕組みや公共施設の使い方などを知ること。	自分の地域や周辺の地理などの社会の様子、警察署や消防署などの公共施設に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 日常生活に関わりのある社会の仕組みや公共施設が分かり、それらを表現すること。 (4) 日常生活に関わりのある社会の仕組みや公共施設を知ったり、活用したりすること。
コ社会の仕組みと公共施設	家族・親戚・近所の人	・家族や親戚の様子に関心をもつ。 ・身近な地域に興味や関心を持ち、自分との関わりに気付き、それらの働きを知る。 ・自分の父母、兄弟姉妹、祖父母が分かり、家族と気持ちを安定させて生活する。 ・隣近所の人などに関心をもつ。	・家族がそれぞれ役割をもっていることに気付く。 ・身近な地域で働く人などに対して関心を広げる。	・家族や親戚、近所の人々の名前を言う。 ・家族の職業や身近に見られる職業が分かる。
	学校	・教室の場所や用途に関心をもつ。 ・学校で働く人に興味や関心を持ち、自分との関わりに気付き、それらの働きを知る。 ・校内探検などを通して、自分の学級や音楽室、図書室などに関心を持ち、その場所や名称を知る。 ・担任の先生や保健の先生など、自分に身近な先生が分かり、気持ちを安定させて生活する。	・学校にある教室の名称や主な用途が分かる。 ・学校で働く様々な人に関心をもつ。	・学校で働く人と自分との関わりに気付き、それらの働きを知る。 ・学校で働く人の職業名と果たしているおよその役割が分かる。
	いろいろな店	・店の種類が分かる。 ・近隣や通学路にある店に関心をもつ。	・店の名前を言う。 ・それぞれの店で売っている品物が分かる。 ・教師と一緒に買い物に行き、いろいろな種類の店やそこで販売している商品に関心をもつ。	・いろいろな店の種類が分かり、それぞれの店の名称やそこで扱っている商品の名前が言える。 ・商品はどこで生産されたのか、どこから運ばれたのかなどを調べ、工場や農家などへの関心を高める。
	社会の様子	・自分が住んでいる地域の自然や街の様子に関心をもつ。 ・自分が住んでいる地域の自然や街の様子の特徴が分かる。 ・自分の住んでいる地域の名称、住所が分かる。 ・自分が住む近所には商店、公園、学校、駅などがあることに気付き、それらに関心をもつ。	・地域や社会の出来事に興味や関心をもつ。 ・自分が住む町の公共施設やいろいろな商店、河川や山、公園などの様子に関心を持ち、およその名称などを知るとともに、自分の生活との関連について知る。	・自分の住む地域や隣接する市町村の名称が分かる。 ・自分が住んでいる地域や周辺の地域の田畑、大きな河川、港湾、商業地や工業地、住宅地などのおよそが分かる。 ・地域で見られる産業にも関心を深め、その働きを知る。 ・テレビや新聞、インターネット等で身近な社会の出来事を知り、関心をもつ。 ・国民の祝日に関して、そのおよその意味が分かる。
	公共施設の利用	・公共施設を利用する。・公共施設の名前を言う。・公共施設の場所が分かる。・公共施設の役割が分かる。 ・児童にとって身近な公園や図書館、駅などの公共施設を安全に利用しながら、その役割に気付く。 ・図書館、体育館、児童館などの身近な公共施設を適切に利用し、そのおよその働きが分かる。 ・警察署、消防署などを実際に訪問したり、見学したりして、社会の一員としての利用の仕方を知るとともに、およその仕事の様子が分かる。		

生活

		小1段階	小2段階	小3段階
コ社会の仕組みと公共施設	交通機関の利用	- 交通機関の名称や利用方法、目的地まで行くための交通機関を知る。 - 電車やバスなどを利用し、乗降時には、様々な方法で料金を支払うなどを体験する。	- 電車やバスなどを利用し、切符を購入したり料金を支払ったりすることなどに慣れる。 - いろいろな交通機関があることを知る。	- 日常的に利用している電車やバスなどの切符を自動券売機などで買う。 - 電車やバスを一人で利用して通学に慣れたり、目的地までそれらを実際に利用できたりする。 - 交通機関が遅延した際の対応方法や校外学習時の目的地までの交通機関を知る。
	内容	教師と一緒に公園や野山などの自然に触れることや生き物に興味や関心をもつことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身の回りにある生命や自然に気づき、それを教師と一緒にみんなに伝えようとする。 (イ) 身の回りの生命や自然について関心をもつこと。	小動物等を飼育し生き物への興味・関心をもつことや天候の変化、季節の特徴に関心をもつことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身近な生命や自然の特徴や変化が分かり、それらを表現しようとする。 (イ) 身近な生命や自然について知ること。	身近にいる昆虫、魚、小鳥の飼育や草花などの栽培及び四季の変化や天体の動きなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 日常生活に関わりのある生命や自然の特徴や変化が分かり、それらを表現すること。 (イ) 日常生活に関わりのある生命や自然について関心をもって調べること。
サ生命・自然	自然との触れ合い	- 身近な自然の中で遊ぶ。 - 自然を利用した遊びをする。 - 校外学習などの際に自然に親しむ。 - 公園、川、野山、海などで楽しく遊び、自然の事物や事象に触れ、生き物などに興味や関心をもつ。	自然の事物や事象に触れ、自然がその姿を変えることが分かったり、動物の動きなどに興味をもったりする。	- 草木、木の実、落ち葉などを集めたり、形や色などの特徴をつかんだり、植物の変化を捉えたりする。 - 自然の事象として天候の変化などについて知る。
	動物の飼育・植物の栽培	- 身近に生息する小動物や草花を探したり様子を観察したり、触れたりして、それらに関心をもつ。 - 世話をしたり、育てたりして、成長や変化に気付く。 - 飼育している身近な動物や栽培している植物に興味をもつ。	- 小動物を飼育し、生き物への興味や関心をもつ。 - 飼育動物のために、校庭の草を刈ったり、給食室に野菜くずをもらいに行ったりするなどして、自分で育てるという実感をもつ。	- 身近にいる昆虫、魚、小鳥の飼育や草花などを栽培しながら関心を深める。 - 動物を飼育する場合は外敵の防止や気温の変化などに十分配慮し、飼育環境を整える。 - 植物を栽培する場合は、発芽、開花、結実といった一連の成長の様子の観察をする。また、適時、除草したり、肥料を施したりする。
	季節の変化と生活	- 天気や空の様子に関心をもつ。 - 地域の行事と季節の関係について知る。 - 晴れや雨などの天候の変化に気付く。	- 四季の特徴や天候の移り変わりに気付く。 - 天候の変化や、太陽、月、星などと昼夜との関わりに関心をもつ。 - 冬は寒く夏は暑いなどの季節の特徴に関心をもつ。	- 天気予報や台風などの情報に関心をもつ。 - 太陽の出没の方角や月の満ち欠けなどを観察する。 - 四季の変化に関心をもつ。 - 季節と行事の関係に関心をもつ。
	内容	身の回りの生活の中で、物の重さなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身の回りにあるものの仕組みや働きに気づき、それを教師と一緒にみんなに伝えようとする。 (イ) 身の回りにあるものの仕組みや働きについて関心をもつこと。	身近な生活の中で、ものの仕組みなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身近にあるものの仕組みや働きが分かり、それらを表現しようとする。 (イ) 身近にあるものの仕組みや働きについて知ること。	日常生活の中で、ものの仕組みなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 日常生活の中で、ものの仕組みや働きが分かり、それらを表現すること。 (イ) ものの仕組みや働きに関して関心をもって調べること。
シものの仕組みと働き	物と重さ	- 物の重さに関心をもつ。 - 物は形が変わっても重さは変わらないことに気付く。 「重い・軽い」という感覚を経験するなどして、物の重さに関心をもつ。	天秤、ばね秤、台秤といった道具を活用するなどして、物には重いものと軽いものがあることに気付く。	粘土などの身の回りにあるものを広げたり、丸めたりするなどして形を変え、手ごたえなどの体感をもたしながら重さの違いを調べるなどして、物は形が変わっても重さは変わらないことに気付く。
	風やゴムの力の働き	- 風やゴムの力によって物が動く様子に関心をもつ。 - 風やゴムの力は、物を動かすことができることに気付く。 - 風やゴムの大きさを変えると、物が動く様子も変わること気付く。 - 紙コップロケットといったゴムの力を利用した簡単なおもちゃで遊ぶなどして、風やゴムの力によって物が動く様子に関心をもつ。	色紙や色テープを使って風によって起こる空気の流れを視覚化するなどして、風やゴムの働きに着目できる。	ウィンドカーといった風の力を利用したおもちゃづくりなどをして、風やゴムの大きさを変えると、物が動く様子も変わること気付く。